

四点描画テスト（創造性テスト）の反応の分類

伊 賀 憲 子*

The Classification of the Responses of Four-Point-Picture-Drawing Test (Creativity Test)

Noriko Iga

「創造的思考の評価基準について」と題する久米氏ら^{1), 3), 4), 5), 6), 7)}の一連の研究では、6個の下位テスト（用途・原因推定・標題付け・四点描画・想像力・図案発見）で構成した創造性テストを作製し、創造的思考の中心をなすと思われる独創性について、仮に3個の下位尺度、すなわち稀少性尺度・巧妙性尺度・遠隔性尺度を試み的に設定して、各尺度とも6段階の評定法（0から5までの6段階となっているが、0段階にはでたらめ反応や了解不可能な反応を入れてあり、実際に点数として加算されるのは1～5の段階である。）を用いて数量化を行ってきたのである。その際の採点は、次に示すように流暢性・柔軟性・稀少性・巧妙性・遠隔性の5尺度で各下位テスト別に粗点を算出するというものであった。

流暢性尺度 各テストにあらわれた反応数をもって粗点としている。ただし、同一反応がみられる場合には、それらはすべて1反応とみなしている。

柔軟性尺度 各テスト別に反応内容に基づいてカテゴリーを作製し、反応が出現したカテゴリーの数をもって粗点としている。

稀少性尺度 各テスト毎に標本集[■]全員の反応数から各反応の出現頻度を求め、出現頻度の

少ない反応から配列して順次累積比率を算出しその比率に従って10%、30%、70%、90%となるような点で区分をして5～1を配点してそれぞれの反応の粗点としている。

巧妙性尺度 各テスト別にそれぞれの反応を斬新で面白い発想をしている程度に応じて、「全然認められない、あまり認められない、やや認められる、かなり認められる、非常に認められる」の5段階で評定し、各反応の配点を決定している。

遠隔性尺度 各テスト別にそれぞれの反応を、かけ離れた奇抜な発想をしている程度に応じて、「全然認められない、あまり認められない、やや認められる、かなり認められる、非常に認められる」の5段階で評定し、各反応の配点を決定している。

このような評価方法とは別に、久米氏ら⁽²⁾は着想や発想の仕方でも評価する方法を提唱している。

課題設定の仕方 課題解決場面における課題の設定の仕方に、設定された課題をそのままにして課題解決を行なっていこうとするやり方と、設定された課題を解決者の都合のいいように最初に変形して、その後で課題解決をしていこうとするやり方とがある。前者を原型依存型と呼び、後者を変形指向型と呼んでいる。

* 本学講師 造形心理学

課題への取り組み方 課題設定後、課題を解決しようとする場合に2種類のとり組み方がある。一つは、解答者が既に蓄積している情報(知識)の中から適当と思われるものを選択抽出して行なう単なる情報再生的なやり方であり、もう一つは、課題に適当と思われる情報をただ再生するだけでなく、課題そのものに解決者のほうで勝手に主観の意味づけを行なって解決していかうとするやり方である。前者を情報選択型と呼び、後者を意味附加型と呼んでいる。

思考形態 課題解決にあたっての着想や発想の形態として、月並みで紋切型的ないわゆる習慣的な着想や発想と、この逆に、月並みで紋切型的な発想を打破するような形であらわれるものがある。前者を習慣的思考と呼び、後者を脱習慣的思考と呼んでいる。

課題解決の領域 着想や発想に際して、現実を経験した、あるいは矛盾しない論理の範囲で推定して得られる事物あるいは事象に材料を求める場合と、全くの空想的あるいは架空の事物や事象に材料を求める場合とがある。前者を経験領域と呼び、後者を非経験領域と呼んでいる。

本研究では、四点描画テストを用いて、巧妙性尺度と遠隔性尺度による評価と着想や発想の仕方による分類との関連を検討しようとするものである。

方 法

テスト：使用したテストは次に示すような四点描画テストである。

次にあげた4つの点をつかって、できるだけたくさんの絵を描いてください。
(テスト時間 3分)

.
.
.
.

被験者：中都市の中学校(愛知県K中学校)の1~3学年 男女合計843名。

結果と考察

843名の総反応11,262個について評価を行なう前に、評価を簡単にするための、反応のカテゴリー化を行なった。すなわち、描画の内容によってまず大きなカテゴリーに分け、その後4点の利用の仕方によって更にこまかなカテゴリーに分類していった。そして、次の例に示すような形で、合計142個のカテゴリーを作製した。ただし、11,262個の反応のうち86%にあたる9,710個は4点をただ直線あるいは曲線で結んだだけのものであり、残りの1,552個について141個のカテゴリーを作製したものである(表2参照)。

このようにしてカテゴリー化した反応について、単に4点を直線や曲線で結んでできた単純な絵ではなくて、4点が絵の中で要素としてうまく生かされているものや、4点の正方形的な形が絵の中に埋没してしまって、正方形的な4点を感じさせないものという基準に基づいて、それぞれ巧妙性尺度、遠隔性尺度を決定した(表3、表4参照)。これら2個の尺度の評価を組み合わせて表示したのが表5である。そしてこれらの描画のいくつかを4個の分類基準に従って分類した結果が表6である。ここで原型依存型とは、4点あるいは四角をそのままの形で用いているものであり、変形思考型は、4点を分離させて4点として感じないようにさせているか、四角形に突出部分を作って四角形そのままの形をくずそうとするかの、いずれかのやり方をしているものということになる。また、情報選択型は、4点をただ単純に利用して描画しているにすぎないものであり、意味附加型は、4点あるいは四角の形に意味をもたせて、しかもそれらが描画の一部として生かされているものということになるようである。なお、課題の解決領域は、ここにあげた例ではすべて経験領域の描画であった。

このような形で分類を行なってみた結果では

独創的思考，すなわち巧妙性尺度・遠隔性尺度で高い評価を得た反応は，変形思考，意味附加

型，そしてどちらかといえば，脱習慣的発想をするものといえそうである。

表1 描画のカテゴリー化の例

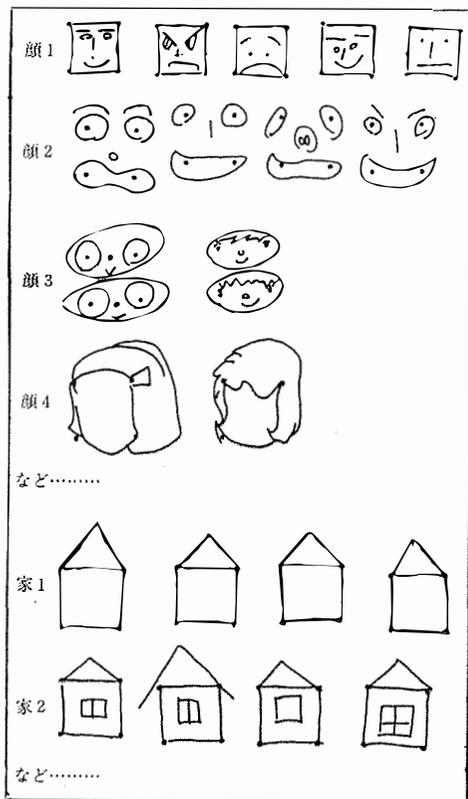


表3 巧妙性尺度による段階区分

段階区分	反応の例
0	
1	
2	
3	
4	
5	

表4 遠隔性尺度による段階区分

段階区分	反応の例
0	
1	
2	
3	
4	
5	

(注) 表2次頁

表2 表カテゴリー化された後の反応度数 (11,262個の全反応による)

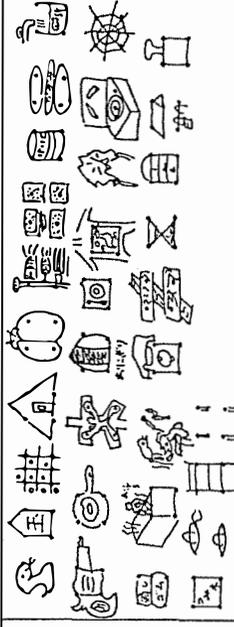
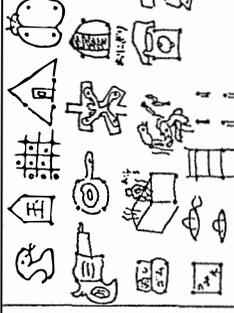
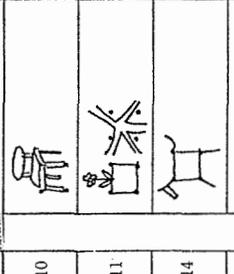
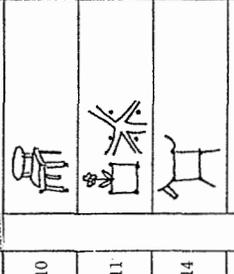
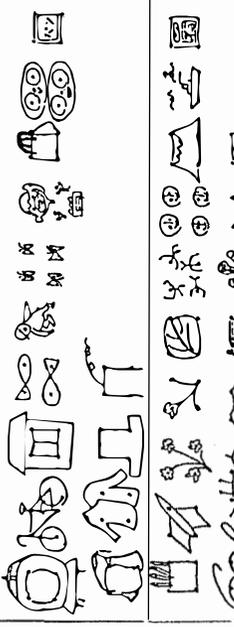
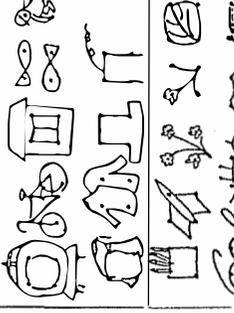
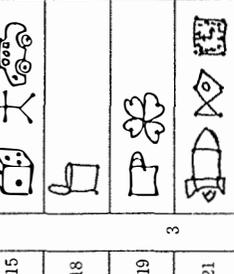
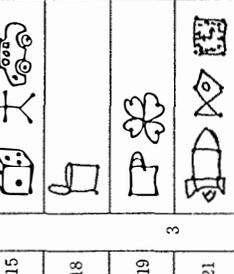
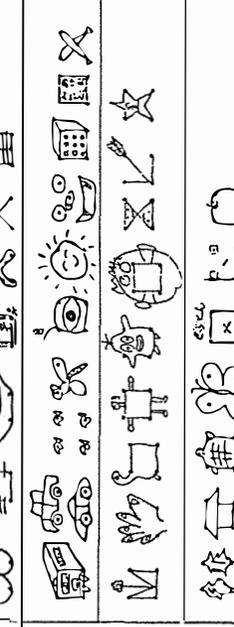
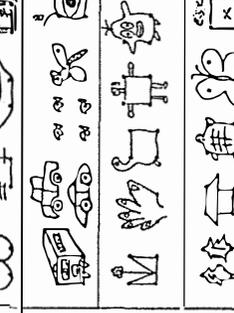
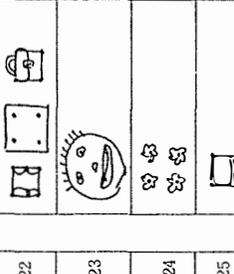
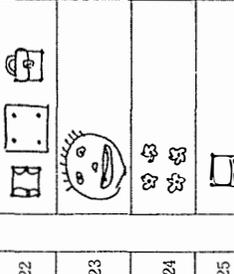
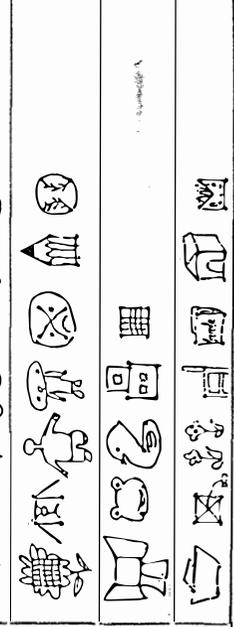
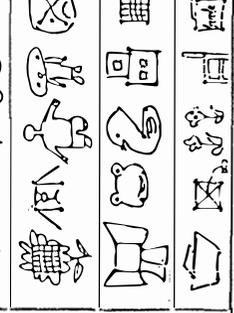
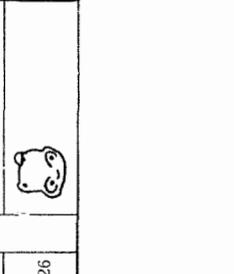
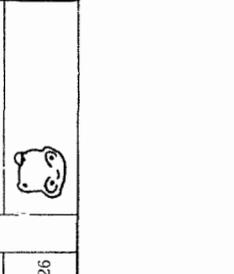
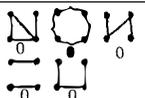
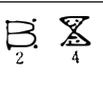
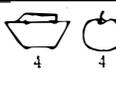
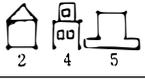
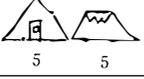
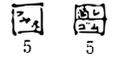
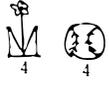
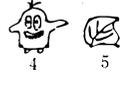
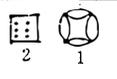
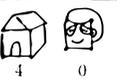
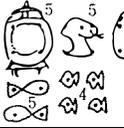
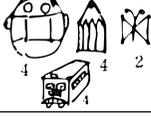
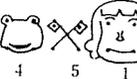
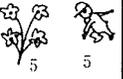
度数	最少年齢の段階	反	応	度数	最少年齢の段階	反	応
1	5			10	3		
2	5			11	3		
3	5			14	3		
4	5			15	3		
5	5			18	3		
6	4			19	3		
7	4			21	3		
8	4			22	3		
9	4			23	3		
				24	3		
				25	3		
				26	3		
				34	2		
				35	2		
				41	2		
				43	2		
				45	2		
				46	2		
				47	2		
				52	2		
				56	1		
				59	1		
				105	1		
				182	1		
				19710	1		

表5 巧妙性・遠隔性両尺度の描画の評価

評価段階	遠隔性尺度						
	0	1	2	3	4	5	
巧妙性 尺度	0						
	1						
	2						
	3						
	4						
5							

描画の下の数字は稀少性尺度の値を示す

表6 着想・発想の4分類の描画の分類の1例

課題設定の仕方 解決領域 課題への 取り組み方 思考形態		原型依存型		変形思考型		
		経験領域	非経験領域	経験領域	非経験領域	
情報 選択 型	習慣的思考	 		 		
	脱習慣的思考	 		 		
意味 附加 型	習慣的思考	 		 		
	脱習慣的思考	 		 		

本研究をまとめるにあたり、早稲田大学教授久米稔先生に多大なご指導ご協力をいただきましたことに対し、心から感謝の意を表します。

参 考 文 献

- 1) 久米稔, 相馬一郎, 小関賢, 矢沢圭介, 黒岩誠, 三島正英「創造的思考の評価基準について(1)その1, 用途テスト」日本心理学会第39回大会発表論文集 1975
- 2) 久米稔, 小関賢, 高野隆一, 矢沢圭介, 黒岩誠, 三島正英「創造性の評価基準について Originality 反応評価の試み」早稲田大学心理学年報 8 卷 1976
- 3) 黒岩誠, 久米稔, 矢沢圭介, 高野隆一, 吉光清, 星野美智子, 小関賢, 三島正英「創造的思考の評価基準について(2)その1, 原因推定テスト」日本心理学会第40回大会発表論文集 1976
- 4) 小関賢, 相馬一郎, 久米稔, 矢沢圭介, 黒岩誠, 三島正英「創造的思考の評価基準について(1)そのII, 想像力テスト」日本心理学会第39回大会論文集 1975
- 5) 小関賢, 久米稔, 黒岩誠, 矢沢圭介, 高野隆一, 吉光清, 星野美智子, 三島正英「創造的思考の評価基準について(2)そのIII, 図案発見テスト」日本心理学会第40回大会発表論文集 1976
- 6) 矢沢圭介, 相馬一郎, 久米稔, 小関賢, 黒岩誠, 三島正英「創造的思考の評価基準について(1)そのIII, 四点描画テスト」日本心理学会第39回大会発表論文集 1975
- 7) 矢沢圭介, 久米稔, 黒岩誠, 高野隆一, 吉光清, 星野美智子, 小関賢, 三島正英「創造的思考の評価基準について(2)そのII, 標題付けテスト」日本心理学会第40回大会発表論文集 1976